

令和6年度 中体連岩瀬支部総合大会 軟式野球競技 実施要項

1 期 日 令和6年 6月4日(火)・6月5日(水)
予備日: 6月6日(木)・7日(金)

2 会 場 牡丹台球場

3 日 程 ○会場準備/ 8:30~ (2日目は 7:30~)
~第2試合の両チームが行う~
○監督会/ 9:15~
○開会式/ 9:30~

【開会式順序】

- ①開式のことば
- ②優勝杯返還
- ③部会長あいさつ
- ④競技上の注意(審判長)
- ⑤選手宣誓
- ⑥閉式のことば
- ⑦諸連絡

【閉会式順序】

- ①開式のことば
- ②成績発表
- ③表彰
- ④部会長あいさつ
- ⑤講評(審判長)
- ⑥閉式のことば
- ⑦諸連絡

○第1試合/ 10:00~ (2日目は 9:00~)
○第2試合/ 12:00~ (" 11:00~)
○第3試合/ 14:00~ (" 13:30~)

4 選手登録

- (1) 出場選手は必ずユニフォームを着用し、参加申込書通りの背番号をつけること。
- (2) メンバーの変更は、監督会議等で認める。ただし、緊急のもののみとし、校長による理由書をつけること。
- (3) 1チームの編成は、監督1名、コーチ2名(合同チームの場合はその限りではない)、選手20名以内(スコアラーを含む)とし、1チーム選手9名からの参加を認める。女子の参加も認める。校長はこれ以外にベンチに入ることができる(監督・コーチは当該校の職員とする。外部コーチについては、当該校長が認めた者とし、最大1名まで認めるが、その確認書を事前に提出すること)。

5 試合前

- (1) ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- (2) 監督・コーチは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用(コーチはノッカーを兼ねない場合はワイシャツ・ポロシャツなどの私服でも可。ただし、選手と同一の野球帽子は着用。コーチが女性の場合も同様)すること。監督は背番号30、コーチは29番、28番を必ずつける。また、サングラスの使用は禁止とする。
- (3) オーダー表の交換は、監督またはコーチ(教職員)が引率の上、主将は所定のメンバー表を5通(福島県中学野球競技力向上委員会のものを用い、選手名ふりがなを必ず明記すること)持参し、大会本部に提出する。同時に攻守を決定する。その際、試合球を3個持参する。また、テーピング着用の選手も同行すること(前試合4回終了時)。
- (4) 選手のテーピングは肌色に近いものを用い、投手は投球に影響を与えるとみなされるものは使用できない。(投手の指先は禁止)なお、メンバー用紙交換時に該当選手は同席し、確認をしてもらうこと。また、選手のネックレス系のリングなど(腕輪・首輪)の装飾品の着用は認めないので各チームで指導すること。
- (5) 第2試合以降のチームは、メンバー用紙交換後、当該試合チームの監督に断ってから自軍ベンチ側ブルペンを使用することができる。終了後は速やかに退出すること。あくまでも試合中の選手が優先であるので先発投手に限る。捕手はフル装備(マスクも装着)で行い、その際フィールド内にグラブやマスクを置いたままにして投球練習をしないこと。
- (6) 会場(球場)内での練習は、その会場(球場)使用規定に従い、安全面に十分配慮しながら実施すること。
- (7) 球場内における打撃練習についてはトスバッティングまでとし、ハーフ打撃やフリー打撃は行わない。

- (8) シートノックは、後攻側から始め、通告時より7分以内とする。ただし、状況によっては短縮または省略することもある。ダブルゲームの場合、シートノックは行わない。(会場が変わる場合はその限りではない。)ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。また、その際のサングラスは使用禁止とする。
- (9) マウンドは使用しない。
- (10) 相手チームがシートノックをしている時は、ベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習のみ認める。
- (11) バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判員の確認に応じなければならない(省略の場合もある)。なお、必ず規定のもの(バットはJSSB公認のもの)を使用し、破損などの不備がないよう常に整備・点検を怠らないこと。また、用具類一切を自軍ベンチ内に置き、ユニフォーム(外見がチーム同一型・同一色・同意匠のもの。スパイクの色は、支部大会においては統一を義務付けない)・用具類は華美にならないよう配慮すること。

6 試合規定

- (1) 試合はトーナメント法で行う。
- (2) 組み合わせ抽選は、第76回白牡丹大会の上位2チームをシードとし、抽選する。
※ 第1位：須賀川二中(第1シード) 第2位：西袋・稲田連合(第2シード)
- (3) 試合は、その年度の公認野球規則および福島県中体連軟式野球規則を適用する。
- (4) 使用するボールは、(財)日本中体連軟式野球競技部が決めた試合球(M球)とする。
- (5) 正式試合は、通常7イニングから成る。得点差によるコールドゲームを適用する。
- (6) コールドゲームは、3回(2回1/2)10点差、5回(4回1/2)7点差とする。決勝戦も適用する。
- (7) 暗黒・降雨等で試合続行不可能の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。
- (8) ボークは審判の判断で初回よりとる(新人戦のみ投手一人につき1回目は指導とする)。
- (9) 雷が発生しそうときは金属バットの使用を禁止するので、木製バットも準備すること。
- (10) 延長戦は行わず、勝敗が決着しない場合は8回から、次のような特別延長戦を行う。

タイブレーク方式(特別延長戦)：継続打順で前回の最終打者を1塁走者、2塁走者をその前の打者とする。すなわち、無死一・二塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。(抽選は行わない。)通常の延長戦と同様、規則によって認められる選手の交代は許される。

7 試合中

- (1) 監督・選手は、試合進行上無用なタイム・サインを慎み、攻守交代時は常にスピーディな試合進行に努めるよう次の事項に留意すること。
 - ① 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは攻撃前のベンチミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
 - ② 毎イニングの先頭打者は、自らの打者席側のダートサークル外まで来て待つこと。投球練習に合わせた素振りなどは禁止する。捕手のセカンドスロー終了後に、打者席に速やかに向かうこと(捕手の後ろで投球偵察などはしない)。
 - ③ 次打者は投手が投手板に位置したら、次打者席で素振りなどをせずに打撃に注目すること。なお、次打者席にバットを複数持ち込まず、ヘルメットなども置きっぱなしにしない。
 - ④ サインを見る打者は、打者席から出ずに見ること。片足だけ外すようなこともしない。
 - ⑤ 捕手は1アウト時はもちろん2アウト後でも、次打者の時はプロテクターを外して待つこと。また、攻守交代となった時には、捕手はベンチ前で捕手用具一式を控え選手に協力してもらいながら、速やかに装着すること。それを待つ間の投球練習に対する捕手は、ベンチ入りしている監督またはコーチが行ってもよい。
 - ⑥ 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は7球以内とし、2回以降は3球とする(審判が状況を考慮する)。
 - ⑦ 捕手が投手の投球(練習も含む)を受ける場合は、(安全面から)必ず捕手用具一式を完全に装着すること。予備選手も同様とする。また、捕手は返球のため、頻りに捕手席を離れないこと。
 - ⑧ 走者のいる時に、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。
 - ⑨ 攻守交代の時、投手または投手板に最も近い野手が試合球を丁寧に投手板上におくこと。また、ロジンは忘れずにベンチへ持ち帰る。
- (2) ファウルボールの処理は、1・3塁各側ベンチ選手が拾い、速やかに補助員に渡すこと。

- (3) 試合中の控え選手のアップについては、グラウンド内では守備交代要員として一組までのキャッチボールを行う選手のみ、及び代打要員としてベンチ脇の代打用サークル（設置されないこともある）での素振りを行う選手のみに限る。
- (4) メガフォンの使用は監督のみとする。
- (5) 死球や接触プレーなどの突然事故が起き、治療のために一時走者を代えたい場合は、球審に申し出て、審判団が必要と認めた時はこれを許可する。臨時代走は、投手・捕手を除く打者前位のものとする。
- (6) 審判員に対して規則上の疑義については、当事者と監督が直接抗議することができる。
- (7) 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行う時以外は、ベンチからでないものとする。
- (8) 原則として選手のグラウンドコートの使用は認めない。ただし、走者となった投手を除く。
- (9) 手袋を着用しても差し支えない。ただし色は白か黒一色とする（高校野球に準じる）。また、コーチャーとの手袋の受け渡しはしないこと（走塁時も使用可とする。ただし、投手の投球時は使用不可）。
- (10) 塁上の走者およびコーチスボックスやベンチから、球種などを知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- (11) 本塁打を打った選手や生還した選手に握手やタッチを求めるために、グラウンドに出てきてはならない。
- (12) 危険防止のため次のことを徹底する。
 - ① バットリング・マスコットバット・鉄棒等の会場への持ち込みを禁止する。
 - ② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実には妨害になった場合は走者をアウトとする。
 - ③ 捕手のマスク・ヘルメット・レガーズ・プロテクター・スロートガード・ファウルカップと、打者・走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。また、リストバンドおよびハイカットストッキングの使用を禁止する。
 - ④ 捕手のブロックについては、ボールを保持している時しか塁線上に位置することはできない。
- (13) 規則5. 10原注〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手になる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。
- (14) 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップなどの相手のほか、バースコーチ・伝令も許される。
- (15) 監督が、投手の所へ行く回数の制限
 - ① 監督が、1試合に投手の所に行ける回数（守備側のタイム）は3回以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）は2イニングスに1回行くことができる。
 - ② 捕手を含む内野手2人以上が、1試合に投手の所に行ける回数（選手間で行うタイムの回数）を、7イニングスの試合にあっては3度以内とする。ただし、投手交代の場合は除く。なお、延長戦（特別延長戦も含む）となった場合は、2イニングスに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所に行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。
 - ③ 監督が、相手チームのタイム中、投手のところに行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。
- (16) 攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）は2イニングスに1回までとする。守備側がタイムをとった時に、打者を呼び寄せた場合も攻撃タイムとして数える。
- (17) イニングの最初の捕手による掛け声は、初回と最終回のみホームプレートの前に出てかけてもよい（他のイニングはキャッチャーズボックス内でのみ認める）。
- (18) 投手が主審からボールを受け取る際は、脱帽しなくともよい。
- (19) 捕手は、マナーアップの観点から、「捕球後ミットを動かす」「判定後もミットを止めたまま動かさない」「入った！などの声をかける」などの行為は厳重に慎むこと。
- (20) 肩・肘の障害予防の観点から、投手一人が一日に投球できるイニングを7イニングとする。3分の1イニング（アウト1つ）であっても1イニングの投球と数える（ただし、特別延長戦のイニングは含めない）。県中大会以上は、投球数制限（投手1人につき1日100球）を適用する。

8 試合後

- (1) 試合終了後の挨拶は、ホームプレートを挟んですべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。（公式戦は）相手ベンチに挨拶に行かない。
- (2) 試合を終了した両チームは次の試合のためのグラウンド整備に必ず協力すること。
- (3) 各チームのコーチもしくは監督は、会場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の試合や今後の動向などを確認する。

9 その他

- (1) 天候不順等（降雨・雷・濃霧）による大会の実施の可否、試合の中断および日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
- (2) ダブルゲーム等で同一チームの試合が連続する場合には、前試合の終了時刻から40分程度の休憩時間を確保し、次の試合を再開する。
- (3) 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては各チームで責任を持って十分に注意すること。
 - ① ユニフォームの着こなし・頭髪などの身だしなみに留意しプレーをする。帽子・ユニフォーム・ストッキング（ハイカットは禁止）・アンダーシャツをきちんと着用すること。
 - ② 相手チームや審判員に威圧的侮辱的言動を与えたり、汚いやじを飛ばしたりしないこと。
 - ③ 故意による空タッグや強いタッグ、相手の視界を遮る行為は絶対にしないこと。
 - ④ 審判員の指示や注意を快く聞き入れる姿勢を持つこと。
 - ⑤ 次のような行為の場合、教育的指導を与えてもなお改善がみられない場合は、退場させることもある。
 - ア 投手にバークを起こさせるはっきりした目的で、ボールインプレイ中タイムを叫んだり、他の言葉か何らかの誘発動作をしたとき。
 - イ 選手が競技場内において、スポーツマンらしくない行為をしたとき。
 - A：バット・ヘルメット・帽子等を投げつける行為。
 - B：審判員の判定を不服として、地面をスパイクで蹴り上げたり、大声で怒鳴り散らす行為。
 - C：度を越したスライディング・本塁上での危険な体当たり行為。
- (4) 会場責任者に協力し、円滑に大会が運営できるようにする。
- (5) 試合に関するルールの最終決定は、専門部会および専門部長が決定する。
- (6) 第1試合のグラウンド整備（ライン引きなど）は、第2試合以降のチームが中心に行う。
- (7) 補助員（ボールボーイ4名、カウント表示2名）については、試合当該チームから出すのが基本であるが、ベンチ入り選手の数が極端に少ない場合は、試合外のチームに協力を求める。監督会の際に確認のこと。1試合通して同じ生徒ではなく、交替で割り当てるのが望ましい。2日目の補助員については、1日目の最終試合に敗退したチームで行うのが基本。尚、今大会はスコアボードを使用しない。
- (8) 全試合、須賀川野球連盟審判員の方々に審判をお願いするが、1試合につき1名程度、教員審判員を割り当てる（割り当ては仁井田中・近藤先生による）。

10 応援

- (1) 応援席は、原則的には自軍ベンチ側の外野方向の奥（塁審の立ち位置より後方）に場所を確保すること。なお、選手ベンチの真後ろやバックネット付近に、チーム関係者や保護者が立ち入ることのないようチームで指導徹底すること。
- (2) 応援席のネットやフェンスから、身を乗り出したりすることのないよう、応援責任者は自チームの指導徹底をはかること。
- (3) 横断幕等は自軍ベンチより外野側の位置に設置し、グラウンド内に出さないようにする。
- (4) 「鳴り物応援」「声出し応援」等は、原則的に自チームの攻撃の時に限る。相手チームの攻撃中は控えること。また、投手が投球動作に入ったら、騒がしい鳴り物等、試合運行を妨げ、相手に迷惑をかけるような行為は禁止する。
- (5) 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- (6) 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。
- (7) 応援に来る保護者にも応援の際のマナーの徹底・ゴミや吸い殻の後始末の協力を要請する。

11 県中・県大会の参加について

- (1) 県中地区大会（牡丹台野球場、日和田野球場）出場は、本大会上位2チームとする。
- (2) 福島県大会（いわき地区開催）出場は、県中地区大会上位2チームとする。